

# 私の紙面批評

弁護士

清源 万里子

## 子育て支援一層充実を



(きよもと・まりこ) 1981年、中津市生まれ。2008年弁護士登録。11年大分県弁護士会入会。日本弁護士連合会・犯罪被害者支援委員会委員。現在子育て真っ最中。

た。これは女性の活躍を妨「ボード」で触れていたよけるものであり、憤りを感じうに、放課後児童クラブはじた方は多いだろう。長期休暇中も利用でき、共働きの家庭などにはありがた。このままでは、女性の活躍の場が広がる。待機児童の解消に向けて、支援員の労働環境の整備も欠かせない。

総務省の労働力調査などによると、15〜64歳の女性の就業率は2007年は59.5%だったが、17年には67.4%へ上昇している。しかし、長時間労働を前提とした労働慣行などが依然として根強いという現実がある。仕事と生活の両立が

東京医科大の不正入試問題で、内部調査委員会が記者会見して大学への報告書の内容を公表した。その内容を本紙は8日付朝刊で詳報。大学が女子受験生を減らした理由について、報告書は結婚や出産を踏まえ「年齢を重ねるとアクティビティー（活動）が下がる」という考え方があった、と指摘したことが書かれてい

（きよもと・まりこ）1981年、中津市生まれ。2008年弁護士登録。11年大分県弁護士会入会。日本弁護士連合会・犯罪被害者支援委員会委員。現在子育て真っ最中。

た。これは女性の活躍を妨「ボード」で触れていたよけるものであり、憤りを感じうに、放課後児童クラブはじた方は多いだろう。長期休暇中も利用でき、共働きの家庭などにはありがた。このままでは、女性の活躍の場が広がる。待機児童の解消に向けて、支援員の労働環境の整備も欠かせない。